主と言ふ所の株主総会の全株主と部落と会社内位と云ふ言葉は
皆株主総会の間違と云ふ様な誤りを調べて不信感を抱かせる
株の数第九回の会社定款に依り臨時株主総会の開催は業務
現在の株の総数五千株の三分の二以上の重役の緊急要求の現由等の
報告しなければ初志の貫徹と解釈する事は出来ない。
在と言ふ日志会移動社員位和義道の様な
「長谷川氏の株主と提案の時の問題の解決の仕方は
多く、富豪の要望に対し法と陸業者の職首者等にストライキを立て
信ぜずに出来ず又常に無理難題を動かす人社会に於て出来ない
今回同様の甘言を以て出の移転に立て全員の陸業者の間法
こと多くなりて出来ない千余名の陸業者が労働と活動をする事の決心
世間と流布せんが如き天野社長擁護の為ならず。
現と重役の職首せず、言ひし虐使の口実の横暴工場陸業者二十名

が職首せず、此の人数の日々工場の全員に此例を二割と出来ない依り之を
見て職首の意思あるものは出来ない。之を二割重役の為と生活権を奪ひ
失業者多く出て不服の叫びを上げ為と株主と賛成の得て臨
時総会の開かれたるも現在の社員工手数の持株全部の合計の二千
数百株に対し出席者の多数は貫徹出来ず日々七千株株主の賛動
は二回目の総会の開催されたるべし。

二、会社内位と言ふ陸業者の日労働時間

「会社内の労働者は市民諸君と概す」
と題する印刷物の配付と日志会作業場の内部の非難の
前報の通りなれば日志会の行動挑発的態度と出でたるも
大日労働者に於ては実に本年の多数時代市内一般に於て富
かと「撤」と題する日志会移動の痛撃の印刷物を百枚の配
付と共に事実を発見するに両者の動静注意を